やってみよう!
Let's try!!

Training

セラピードッグへの道

セラピードッグの
基本トレーニング

今回のテーマ: **ホールディング(だっこ)**

目標　利用者様の膝の上でじっとしていられる。

今回のトレーニングドッグ

きび

《 準備 》
ドッグの爪にヤスリをかけて、まるくしておきます。
※ドッグの爪が利用者様の肌に触れないように細心の注意をはらいますが、セラピー前には万一のためヤスリをかけます。特に、狼爪に気をつけましょう。

Step1

両腕で抱きかかえる

両腕でドッグを抱きかかえます。ドッグが不安を感じないように下部をしっかりホールドして安定させ、四肢がそれぞれどこにあるかを把握します。

Step2

利用者様の膝の上にのせる

利用者様の膝から腹側にスライド

利用者様の膝の上に、目印のざぶとんを置き、自分の腕をフォークリフトのように使ってドッグの体重を支えたまま、膝の手前側に静かにのせます。

利用者様の太ももの上辺りまでドッグをスーッとスライドさせます。

Step3

利用者様の膝の上から抱き上げる

フォークリフトの要領で、自分の両腕をドッグの下部に差し込み、ドッグをやさしく抱き上げます。

※場合によっては、ドッグが自ら降りるように指示することもあります。

Check!

セラピーは楽しい!

一般的にドッグは、耳や顔、しっぽを触られることが苦手とされますが、当協会のドッグは子犬の頃から人に触られて育っているので、とても慣れています。日頃のケアやトリミングなどでも触られることは多いので、子犬の頃から慣れさせてあげるといいですね。

☆トレーニング☆

ドッグセラピー事業部のセラピードッグとセラピストは、毎週1回、「My Dog Training School」の**笠木恵子**先生(家庭犬訓練士)のトレーニングを受けています。

〜 スウィート天国へ 〜

2017年1月24日(火)AM4:00に
セラピードッグのスウィートが永眠しました。
18歳10か月でした。長い間スウィートを温かく見守り、
応援していただいたみなさまには深く感謝いたします。

Sweet

〈お問い合わせ〉

有限会社かりゆし　ドッグセラピー事業部

〒701-1333　岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通)　FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp

http://www.therapydog.jp

ORANGE JACKET
Dog Therapy

燦々 Sansan

有限会社かりゆし
ドッグセラピー事業部　会報誌

Vol. 26/ 春号 2017年

Contents

● 私たちのドッグセラピー
"いろは"デビュー
● ドッグセラピーの現場から
いいセラピーにつなげるために
● トレーニング

ドッグセラピー事業部に来たばかりの頃の"いろは"

NEWS　やったね!

セラピードッグ"いろは"がデビューしました!

2015年6月に保護したドッグ"いろは"が、セラピードッグとしての初仕事をオレンジカフェで行いました。先輩のメロンの姿を見ながら、利用者様との触れあい活動からスタート。"いろは"は、ちょっぴり怖がりで慎重な性格なので、最初は緊張していましたが、初めてなのに自分から利用者様に顔を近づけるなど、セラピードッグとしての素質の高さを見せてくれました。メロンの後継ドッグとして、これからの成長を見守るとともに、活躍に期待したいと思います。

今後も、オレンジカフェには"いろは"が参加します。実力が向上して"いろは"から"ほへと"に出世できるように、みなさんの応援をよろしくお願いいたします。

おしらせ

いきがいライフたかまつ「おかやまオレンジカフェ(認知症カフェ)」

集団ドッグセラピーをご活用ください!〈毎月2回〉

開催日時　毎月第2・4水曜 13時〜15時
※ドッグセラピーは13時30分頃から20分程度

喫茶協力　「ひまわりの会」(備中高松地域ボランティア団体)
約30名のボランティア会員が交替でカフェを運営してくださっています(1回10数人)。お菓子は、高齢者様の好みや安全などに配慮し、当施設が選んでいます。

メニュー　ドリンク(お菓子付き)各100円
※コーヒー、紅茶、玉露ほか

席数　24席

場所　いきがいライフたかまつ　1階・地域交流ホール
(岡山市北区立田586-1/tel.086-287-8880)

参加申し込み先
有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部　E-mail　dog_therapy@ikenaga-group.jp　※見学、ご家族の付き添いも遠慮なくご連絡ください。

column

コラム ドッグセラピーの現場から vol.11

いいセラピーにつなげるために

ドッグが落ち着ける環境づくりがいいセラピーにつながる

その昔、自然の中で人はドッグと共にいることで危険を察知し、安全を確保しました。ドッグも人間と暮らすことで安心を得ていました。人とドッグは共に安全を提供し合う関係であり、ドッグが落ち着いていられる場所は、人間にとっても安心できる場所なのです。

そういった、人とドッグが「落ち着いている」「安心できる」場所をつくることは、私たちトレーナーの大切な役目です。では、認知症の利用者様とドッグの両方が安心できるような環境をつくるには、どうすればよいでしょうか。

危険を認知できなければ安全は提供できない

ドッグセラピー事業部では、医療や介護の現場で長年培ったヒヤリハット（事故は起きていなくても、事故につながる可能性を感じた体験）の考え方にもとづき、事故やトラブルの可能性を仮想。その種をすべて取り除くことで事故ゼロを実現しています。

たとえば高齢の方の場合、手を床についただけでも骨折につながったり、皮膚に硬いものが当たっただけで傷ついたり、身体の安全について細心の注意が求められます。そのため、私たちはセラピーを実施する場所の安全確認や準備、ドッグの手入れなどを入念に行っています。

反実仮想力と危険予知力でワンテンポ速い対応ができる

また、「利用者様が、ここで急に立ち上がられたら、ドッグはどうするかな？」など、利用者様の行動に対するドッグの反応を予知し、対応策を用意しています。ドッグの生得的行動や習得的行動によっても反応が異なるので、それぞれのドッグに応じた対策を考えています。

このように事故やトラブルを防ぎ、利用者様の安全を守るには、ドッグのトレーニングだけでなく、トレーナーが介護知識・技術を身につけておくことが重要です。また、利用者様の行動を予知するには、利用者様に対する集中力や観察力も必要です。そして、ドッグセラピー事業部では反実仮想力（もし～だったら～なるだろう）を働かせて危険を予知し、事故やトラブルを未然に防ぐ努力を続けています。

そうやって危険を認知することにより、トレーナーは余裕を持ってセラピーに集中できます。トレーナーが落ち着いているとドッグも、利用者様も落ち着いていることができ、いいセラピーにつながります。トレーナーが冷静さを保つことで視野が広がり、危険を事前に察知して防ぐという、ワンテンポ速い行動も可能になります。

私たちの「危険予知活動」（実例報告）

認知症の利用者様に対するドッグセラピー活動において、
これまでに私たちが経験したこと（危険を感じたこと）の実例をご紹介します。

例）「集団セラピー活動中に利用者様がポケットに手を入れました」

1	どんな危険がひそんでいるか？	A：利用者様がポケットの中からラムレーズンクッキーを出してドッグに食べさせようとした。 B：収集する傾向のある方が、ポケットの中に集めていた金具のようなものを取り出した。
2	危険なポイントは？	A：ドッグがクッキーを食べようとするかもしれない。 クッキーを食べようとしたドッグの歯が、利用者様の指に当たるかもしれない。 ドッグがラムレーズンを食べると中毒をおこして、おなかをこわしてしまう。 B：ケガの危険 ドッグが誤飲するかもしれない。
3	あなたならどうする？	※ 実際にあなたが遭遇したらどうするか考えてみましょう。
4	私たちはこうする	まず、ドッグのためを思って楽しみに、自発的に用意をしていただいたことに対して感謝の意を表す。 そして、危険な物だった場合は、物をよく見せていただき、 それについて「回想法」などを用いてドッグとの共通の話題を引き出していく。 また、それについて約束などを交わし、次へつなげていく。

《よりよいセラピーのためのポイント》

利用者様の立場にたって考えましょう！

「この子（ドッグ）のために」と用意してくださった利用者様の気持ちを受け取りましょう。
「いけません」「だめです」と否定する言葉は、ひらきかけた利用者様の心の扉をとじてしまう可能性があるので、
あまり使用しないようにしています。
否定語を避け、利用者様の立場にたって、どんな「言葉かけ」がよいか考えましょう。

利用者様やドッグの性格、状況を考えて対応しましょう！

正解は、ひとつではありません。利用者様の性格や状況、ドッグの特性など、いろいろな条件を考慮して、
どのような対応を取れば危険を回避できるか、日頃から考える訓練をしましょう。